

龍谷大学大学院 政策学研究所  
キャップストーン  
社会的認証報告書

平成24年3月26日

一般財団法人 地域公共人材開発機構

## 目 次

### 1. 社会的認証結果（総合評価）

- (1) 社会的認証結果
- (2) 評価すべき点
- (3) 課題
- (4) 指摘事項
- (5) 勧告事項
- (6) 助言

### 2. 社会的認証結果（項目別）

- (1) 目的・教育目標
- (2) キャップストーンの内容
- (3) 学習アウトカムの測定
- (4) キャップストーンの管理・運営・改善
- (5) キャップストーンの特徴

別表1 プログラム審査委員構成

別表2 訪問評価団構成

別表3 訪問評価概要

## 1. 社会的認証結果（総合評価）

### （1）社会的認証結果

「適合（指摘事項付き）」

### （2）評価すべき点

① クライアントからの費用を伴う業務委託型のキャップストーン（以下、CS という）を実現している。又、クライアントとは、業務委託契約が結ばれており、それに伴う仕様書なども適切かつ詳細に作成されている。

② 適切なシラバス、個別相談、CS ごとの説明会という資格教育プログラムの為のシステムが実現している。

③ 担当教員の他に、リサーチアシスタント、事務職員も配置されており、充実した教育支援体制が組まれている。

④ グループワークを効果的に取り入れることにより、学習者間でのコミュニケーション力や、協働して進めていく力の涵養に繋がっている。

### （3）課題

① クライアントからの費用を伴う業務委託型のCS が可能となっているのは、大学・研究科や今年度CS を担当した2人の教員に対する信頼によるところが大きいと思われる。今後はこうした内容をCS の学習者自らが主体的に、実施できるような力を強化することが求められる。

② 少なくとも一部の学習者が、CS の現場において、過去に修了したプログラムでは修得していない知識や技能を求められたことが確認できた。今後はCS の趣旨である「習得した知識や技能等を活かした内容」に改善する、あるいは教員及び講師によるフォローする体制を構築する必要がある。

### （4）指摘事項

学習者による異議申し立て制度がない。大学院のような少人数教育では制度作りは難しいという事情も考慮できるが、本基準に求められるものである。

### （5）勧告事項

特になし

## (6) 助言

① 開始初年度でもあるため運営体制がしっかりと整備されているとは言い難い面もあるが、学習者との個別面談やクライアントとの会合・ヒアリングの実施など、様々な取組が進められていることが確認できた。今後は、それらについて研究科として分析・評価することにより、より適切な運営体制が確立されることが望まれる。

② 正規科目として充実している多様なインターンシップとの連動し、テーマのバリエーションを広げるなど、グループワークの困難性を克服できるような制度的措置の検討が望まれる。

③ 学内においてCSのガイダンスを実施する等、広報活動をより充実させ、学習者を増やしていくことが望まれる。

## 2. 社会的認証結果（項目別）

### （1）目的・教育目標（項目別）

1-1	「地域公共政策士」育成のためのキャップストーンの目的および教育目標が明示され、育成すべき能力が明確かつ適切に公表されているか。
-----	---

添付資料1-1-1により、「到達目標」として「地域公共人材として高度な専門性、実践力を獲得することを到達目標とします。実際の課題を取り扱う上で必要となる研究能力、グループワークを遂行する上で必要なコミュニケーションやコーディネート能力を獲得することが重視されます。」とCSの目的及び教育目標が明確に提示されていることが確認できた。

また、大学院政策学研究科履修要項・講義概要に記載するだけでなく、個別の相談やCS対象ごとに説明会を行っていることは、適切な公表という視点から評価できる。

## (2) キャップストーンの内容

2-1	「地域公共政策士」育成のためのキャップストーン修了に必要な期間及び修得ポイント数が、キャップストーンの目的・目標に則して適切に設定されているか。
-----	--

添付資料1-1-1により、CSが大学院の単位として、4単位であることと全30回の内容が確認できた。また添付資料2-1-2により亀岡市、添付資料2-1-3により宮津市のCSについて約1年の期間にわたるプログラムであることが確認できた。

また、宮津市のCSについては年度後半からの実施であるものの、関係者との面談の結果、会議出席・調査等で時間をとり、シラバスや指導期間等との整合性はクリアしていることが確認できた。

ただし、120時間の総履修時間をどのように確保しているかが明示されれば、なお望ましいといえる。

2-2	「地域公共政策士」育成のためのキャップストーンの対象、修了の基準及び実施方法が、当該プログラムの目的・教育目標に応じて策定され、学習者に周知・共有されているか。
-----	--

添付資料1-1-1及び関係者との面談により、個別の相談、説明会で対処されていることが確認できた。

CSの対象については、添付資料1-1-2、2-1-2、2-1-3により、個別の相談を行うことでも周知・共有され、内容の面でも当該プログラムの目的・教育目標に応じて策定されていることが確認できた。

修了の基準と実施方法については、添付資料1-1-1により、詳細はCSごとに開かれる説明会でも学習者に周知・共有されていることが確認できた。

2-3	「地域公共政策士」育成のためのキャップストーンでどのような学習者を想定しているかが明らかにされ、それに合わせた実施形態となっているか。
-----	---

自己点検評価書及び関係者との面談、個別相談などにより、シラバスにおける到達目標との整合性は取れており、学習者の想定は適切に行われていることが確認できた。

また、実施形態については、学習者が少人数であることから、個別の相談、説明会での対処を中心となっている。

### (3) 学習アウトカムの測定

3-1	「地域公共政策士」育成のためのキャップストーンの目的・教育目標に応じた学習アウトカム、ポイント認定の基準及び方法が策定され、それらが学習者に対して、あらかじめ明示され、それらの基準及び方法に基づき、学習アウトカムに対する評価、ポイント認定が行われているか。
-----	--

項目「2-1」および「2-2」に記載したとおり、「『地域公共政策士』育成のためのCSの目的・教育目標に応じた学習アウトカム、ポイント認定の基準及び方法については適切に策定され、また、学習者に対してあらかじめ明示されている」という点については確認できた。

また、「それらの基準及び方法に基づき、学習アウトカムに対する評価、ポイント認定が行われているか」については、評価時点ではポイント認定が行われていないが、関係者との面談により、担当教員だけでなく支援・指導に当たるチームによる評価等が行われるなど適切な測定であると確認できた。

3-2	キャップストーンの学習アウトカムについて、学習者によるプログラム修了後の評価の仕組みが整備されているか。
-----	--

自己点検評価書及び関係者との面談により、学習者による事後評価プロセスの仕組みとして、①アンケート、②学習者だけの会合による学習者からの評価情報の収集、③指導・支援チームと学習者との会合による討論型の評価プロセス、④クライアント側の代表者を交えた会合による事業成果の振り返り等が予定されており、そのうち一部はすでに実施済みであるということが確認された。

今後これらが引き続き予定通り実施されることが望まれる。

3-3	外部機関と連携したプログラムがある場合には、その実施先による学習者の学習アウトカムに対する評価の仕組みが整備されているか。
-----	---

自己点検評価書及び関係者との面談により、亀岡市については、実施先による学習者の学習アウトカムについての評価の仕組みが取り入れられていることが確認できた。具体的には学習者によるプレゼンテーションを期間中に合計4回行い、学習者の評価に反映させるという仕組みであり、既に着手されている。なお、評価は学習アウトカムそのものだけでなく、CSの期間中に見られた学習者の能力等の向上についても行われていることも確認できた。

宮津市についてはこのような仕組みはないが、亀岡市で試行的に行われた仕組みを適用することを今後、予定されていることが確認できた。

#### (4) キャップストーンの管理・運営・改善

4-1	「地域公共政策士」育成のためのキャップストーンの趣旨に沿って、具体的な課題設定方法やマッチング方法を含む実施方法、一年間の科目日程等が明示されているか。
-----	--

自己点検評価書及び関係者との面談により、クライアントからの提案については、具体的かつ政策として実施可能な課題を提示したものであるかを研究科で判断して選定し、さらに具体的な課題設定についてもクライアントと教員間の話し合いで確定する方法をとっていることが確認できた。

実施方法と日程等の確定についてもクライアントとの話し合いで決定した上で、学習者には大学院政策学研究科履修要項・講義概要が説明会で明示されていることが確認できた。

また、学習者が実際にCSとして行う内容は、亀岡市と宮津市それぞれについて、仕様書に記載され、説明会で学習者に説明あり、「地域公共政策士」育成のためのCSの趣旨に沿っていることが確認できた。ただし、フィールドの数も学習者の人数も少ないために学習者に選択の余地はない。

4-2	学習の成果に対する評価、ポイント認定において、評価の公正性及び厳格性を担保するため、学習者からの異議申立に対応する仕組みが明文化され、運用されているか。
-----	--

自己点検評価書により、学習者による異議申し立て制度は存在しないことが確認できた。

関係者との面談により、制度創設を検討したいとの発言もあったので、このことをもってただちに不適切とは言えないが、学習者にとっては就職等に関わる問題でもあり、成績異議申し立て制度の早急な整備が望まれる。

4-3	「地域公共政策士」育成のためのキャップストーンを継続的かつ円滑に実施していくための体制が適切に整備されているか。
-----	--

自己点検評価書及び関係者との面談により、政策学部・政策学研究科FDの会議を2回開催し、教員間で理解の共有を図っていること、地域公共人材大学連携事業の一環でCSの実践研修・研究会を開催し、担当教員や事務職員の理解の共有を図っていることが確認された。

これらの体制により、担当教員・事務職員のレベルアップが図られるとともに、現在の担当教員以外の教員が将来的に当該CSを担当することも可能になると考えられる。



## (5) キャップストーンの特徴

5-1	当該キャップストーンの特徴ある取組みについて記述してください（自由記述）。
-----	---------------------------------------

当該プログラムの最大の特徴は、「クライアントからの費用を伴う業務委託型のCSを実現していること」である。このことより学習者の調査費用の支弁が可能となっており、学習者の責任感やモチベーションの向上につながっている。また、学習者にとっては、自治体の政策立案過程に関与できるなど、学習効果も高いと思われる。

このような組み立てが可能になったのは、ひとえに、大学・研究科や担当教員に対するクライアントからの信頼や評価の結果であり、龍谷大学政策学研究科ならではの強みであると言え、全てのCSがクライアントからの費用を伴う業務委託型である必要はないが、望ましい形の1つであり、それが実現していることはCSの先駆例としても強調されるべきである。

別表1 「プログラム審査委員」構成

所属	お名前
大学プログラム評価に係る専門知識を有する学識経験者（1名）	早田 幸政（大阪大学 大学教育実践センター 教授）
実務経験者（1名）	圓山 健造（社団法人 京都経済同友会 事務局次長）
公共政策系大学（1名）	森脇 俊雅（関西学院大学 法学部 教授）
機構の役員（1名）	西寺 雅也（山梨学院大学 法学部 教授）

(順不同、敬称略)

別表2 「訪問評価団」構成

所属	お名前
公共政策系実施機関（9名）	足立 幸男（関西大学 政策創造学部 教授）、窪田 好男（京都府立大学 公共政策学部 准教授）、小西 敦（京都大学大学院 公共政策連携研究部 特別教授）、杉山 泰（京都橘大学 現代ビジネス学部都市環境デザイン学科 教授）、中谷 真憲（京都産業大学 法学部 准教授）、松田 凡（京都文教大学 人間学部文化人類学科 教授）、的場 信樹（佛教大学 社会学部 教授）、的場 信敬（龍谷大学 政策学部 准教授）、武蔵 勝宏（同志社大学 政策学部 教授）
実務経験者（4名）	田浦 健朗（特定非営利活動法人 気候ネットワーク 事務局長）、中路 幾雄（京都府 政策企画部 副課長）、松岡 秀紀（一般社団法人 CSRプラットフォーム京都 事務局長）、平尾 剛之（一般財団法人 社会的認証開発推進機構 事務局長）

(五十音順、敬称略)

別表3 訪問評価（サイトビジット）概要

平成24年1月27日（金）12:30～17:30

	時間	調査内容	会場
①	12:30～13:30	評価委員打合せ①	紫英館1階 研究室2
②	13:30～14:20	プログラム実施関係者との面談（概要説明）	
③	14:30～15:20	〃（質疑応答）	
④	15:30～16:30	学習者との面談	
⑤	16:30～17:30	評価委員打合せ②	